

大石主税（大橋梧軒）

十五の少年名は主税

慨然父に請うて盟誓を成す

大刀一閃 讐を報ゆるの時

暁色 催し 来て 紅雪 麗かなり

十五少年名主税 慨然請父成盟誓
大刀一閃報讐時 暁色催來紅雪麗

解説 大石主税は元禄十四年、浅野内匠頭が江戸城内で刃傷におよんだ事件の時は、まだ元服前であった。その後、内蔵助が京都山科に移り住んだので一緒に山科へ行き、そこで、元服して良金と名乗った。翌年四月、父の内蔵助は妻りと離別したが、主税は父と行動を共にした。元禄十四年九月、垣見佐内と名乗って江戸へ向かい、十二月に吉良邸に討ち入り、主君の仇を討った。弱冠十六歳で、吉良邸に討ち入った中で最も若い赤穂浪士であった。

語釈 ※大石主税Ⅱ赤穂浪士四十七士の一人。父は大石良雄。母はりく。※慨然Ⅱ憤り嘆くさま。※盟誓Ⅱかたく約束すること。※一閃Ⅱぴかっと光ること。※紅雪Ⅱ血に染まっつての赤とで、真つ赤に見える雪。

通釈 十五歳になった少年の名は主税。主税は父・内蔵助に主君の仇を討ちたいと約束した。四十七士の一員として吉良邸に押し入り、吉良の頭をはねた。吉良邸は血に染また赤と、明け方の光がさし、降り積もつた雪を真つ赤に染めていた。